

陽気ぐらしし世界をめざして

天理教婦人会 創立 110 周年

## 会員決起の集い

きっとみつかる 今の自分にできること

期 間：立教 182 年(2019)5 月 1 日～9 月 16 日

場 所：国内、海外各地で開催

※会場は婦人会ホームページをご覧ください。

内 容：ビデオ 講話 感話 おつとめ

参加費：500 円

### 《今後の会場一覧》

6/19 (水) 10:00	大阪教務支庁	大阪市天王寺区小宮町 9-18	☎06-6771-0012
6/23 (日) 13:00	大鳥大教会	堺北区百舌鳥西之町 1 丁 2 5	☎072-252-3137
6/30 (日) 13:00	南大教会	大阪市阿倍野区昭和町 4 丁目 7-14	☎06-6622-0220
7/1 (月) 10:00	大阪教務支庁	大阪市天王寺区小宮町 9-18	☎06-6771-0012
7/7 (日) 13:00	豊繁分教会	茨木市南春日丘 2 丁目 1-40	☎072-624-3200
7/14 (日) 13:00	高安大教会	八尾市教寺 7 丁目 7 5	☎072-941-7005
8/18 (日) 13:00	芦津大教会	大阪市東住吉区今川 8 丁目 6-32	☎06-6797-3928
8/31 (土) 13:00	大阪教務支庁	大阪市天王寺区小宮町 9-18	☎06-6771-0012
9/1 (日) 13:00	城河分教会	大東市幸町 1 5-1 2	☎072-872-3070
9/15 (日) 10:00	大阪教務支庁	大阪市天王寺区小宮町 9-18	☎06-6771-0012

★誘い合わせて、一人も多く参加させていただきましょう！



## お道の常識 《教会》

(「お道の常識」佐藤浩司著 天理教道友社刊より)

どの宗教にも、礼拝の場所があります。

キリスト教の教会、仏教の寺院、イスラム教のモスク、ユダヤ教のシナゴグ、道教の廟(びょう)、神道の神社など、名称も様々です。当然、礼拝の対象も、役割も違っていています。いずれも聖なる場所として、信者にとっては厳肅(げんしゆく)であり、やすらぎの空間でもあります。

天理教にも教会があります。全国津々浦々、世界の各地に設立されています。歴史的には、教祖の命により結ばれていた信者の集団である「講」をもとにして、法的、制度的な認可を得るために設立されました。

神様より教会の設立をお許しいただくにあたっては、人間創造の目的である陽気ぐらし世界の実現のため、ひとえに救済に専心することを誓っています。たまたま明治政府の宗教政策より「神道」の枠組みのなかで設立されました。のちに独立しますが、長く神道の一教派とされていました。したがって「教派神道」の一つとして、分類されていたこともあります。もちろん「教派神道」というのは分類概念で、そのような神道があるわけではありません。

教会は、人間創造の元の場所である「ちば」から許され、「ちばの理」を受けています。具体的には、親神様、教祖の目標をお祀りします。いわば、国々のそれぞれの土地所に、親神様、教祖がお出張りいただいているわけです。

教会の役割はひと言で言えば救済にあります。事分けて言えば、一つは、神様の人をたすけたいという思いから始められたこの道の真実を、いまだ知らない人に伝えることです。

二つには、救済の業を実践することです。おつとめが勤められます。また、互いにたすけ合いがなされます。

三つには、国々所々おける、陽気ぐらしの雛形道場(ひながたどうじょう)であることです。日常のなかに、うれしい楽しい生活を実践いたします。

四つには、教会につながる信者相互を涵養(かんよう)するところです。会長を芯として、「ねりあい」「談じ合い」が重ねられます。

五つには、地域社会への貢献があります。その一つとして、ひのきしん活動を行います。地域に開かれた公益法人としての貢献にもつながります。それゆえ、税も優遇されています。

ただ、実際に教会の使命を果たそうと努めていても、表面上では、なかなか陽気ぐらしの雛形というふうにはなりません。教会には難儀、不自由をかこつ人々が、たすけを願って集まってきます。問題を抱えている人が集まるわけですから、問題が一切起こらないはずはありません。世間から見て、信仰者の世界がああでは、と指弾されることもあるでしょう。

しかし、一般社会や家庭ならば、問題が起これば、その原因を除去しない限り、深みにはまって解決でなくなります。教会は、他人の難儀をわが事として受けとめ、その難儀が根本から解決するように祈り、たすけ合う所です。

教会生活では、人々の願いと親神様のご守護により、心のほこりは払われ、濁りが澄まされるのです。それゆえ、陽気ぐらしの雛形道場なのです。

一代で大教会を築き、本部員となり、自身も教会で多くの方々をお世話なされた柏木庫治さんは、「ほこりの持ち主が教会からなくなることは、その教会に新しい入り込み者がなくなるということであるから、教会としてたすけ一条の理が鈍ったことになる。これは見かけはよいようでも、教会としては、はなはだ喜ばれないことである」

と述べています。(「よふきぐらし」『柏木庫治選集(五)』〈道友社〉)

私たちはお互い成人を目指し、その途上にあるといえます。その成人の場こそ、教会なのです。